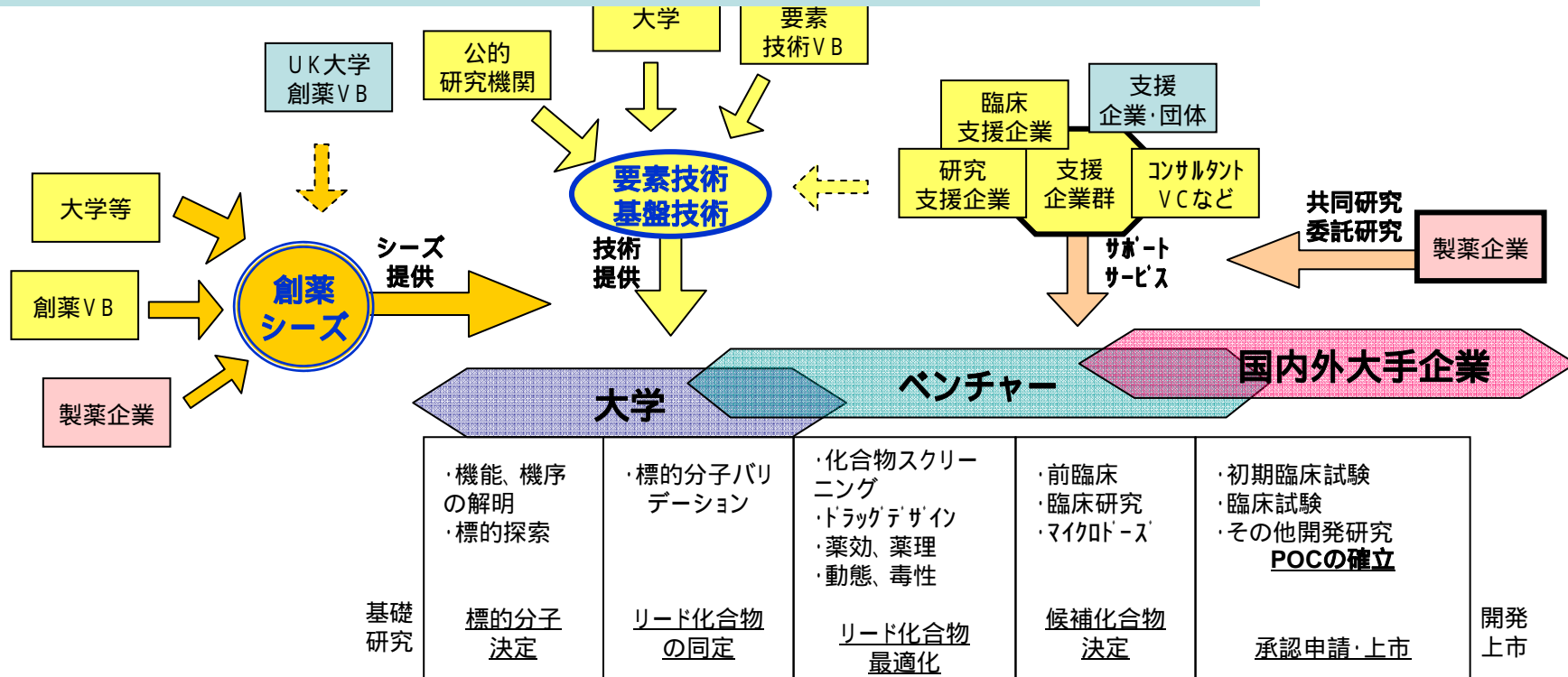


# 国際クラスター形成に向けた グローバル産学官連携ビジネスモデル

現状:多くの点で認識に違いがある!

- 1) 技術移転に関する多数のプレイヤーの存在
- 2) 国内外の価格格差(相場観の違い)
- 3) 最終目標に関する意識差(製品、IPO、技術移転・・・)
- 4) ライセンス戦略の違い
- 5) 知的財産に関する意識差(PCT出願、範囲、ロイヤリティ、訴訟・・・)
- 6) 言葉の壁(専門用語・・・)、ビジネス慣習

➡ 違いを認識した上で  
相互理解!



# 国際クラスター形成に向けた グローバル産学官連携ビジネスモデル

解決策は？

- 1) 国際リエゾンオフィス  
海外での研修を含め、知財本部などから人的派遣・交流促進  
国際的な知財管理
- 2) MOTI (Management of Technology & Innovation)  
海外での実績ある大学との共同研修  
例) 阪大 & ケンブリッジMOTI
- 3) 実用化を目指した国際共同研究所・機関(国際CEO)  
ワン・ストップ・サービス  
ケンブリッジ & MIT(ケンブリッジーMITセンター)  
例) 創薬、再生医療・遺伝子治療
- 4) 給料体系・インセンティブの見直し

得るべきものは？

産学官連携国際コーディネーター  
産学官連携プロジェクト管理ノウハウ  
知財管理(ポートフォリオ管理)  
マネージメントスキルの構築  
ライセンスノウハウ  
実用化例の積み上げ・民間資本の流入  
大型国際共同研究

最終目標: 科学技術立国

国際クラスターの形成  
アジア最大のクラスター  
国際的研究拠点の構築  
実用化された要素技術と国際競争力